

共同研究グループ活動報告（2024 年度）

スペイン語圏トランスナショナル・ヒストリー

2024 年度は、参加メンバーによる個別の研究発表を行いながら、本研究グループの今後の研究の方向性を見定め、メンバーの今後の拡充を念頭においた討議を重ねた。

研究テーマの①「ミクロの視点で、スペイン国内の歴史的・文化的多様性の実態の再検討」については、スペイン国内で、異なる言語文化やアイデンティティを持つとされる地域の歴史的背景についての意見交換を行った。

・7 月 5 日（金）の午後、ハビエル・フェルナンデス氏（インスティトゥト・セルバンテス東京、文化部長）の講演後に、同氏の出身地であるムルシアをめぐる歴史研究と現在の観光政策との関連性について意見交換を行った（メンバー参加者：立石博高、菊田和佳子、黒田祐我）。

・10 月 2 日（水）の午後には、本メンバーの近著『レコンキスター「スペイン」を生んだ中世 800 年の戦争と平和』（中央公論新社、2024 年）の書評会を実施した（メンバー参加者：立石博高、黒田祐我）。

・12 月 26 日（木）の午後には、スペイン在住でフラメンコ学にもあかるい小倉真理子氏と、カタルーニャの歴史に関する概説書の執筆計画の打ち合わせを行うとともに、スペイン国内のスペイン語表現・発音の地域間ヴァリエーションについての意見交換を実施した（メンバー参加者：立石博高、黒田祐我）。

研究テーマの②「世界に広がるスペイン語文化圏の比較研究」に関しては、これを真正面から扱えるメンバーが現状では参加していないので、ラテンアメリカ地域をフィールドとする研究者との意見交換を実施しながら、今後のスペイン・ラテンアメリカ比較研究の具体的な進め方について検討を重ねた。

・5 月 31 日（金）の午後には、木下亮氏（スペイン美術史、本学非常勤講師）、梅崎かほり氏（ラテンアメリカ地域研究、本学准教授）との意見交換を行い、今後の研究の発展の方向に関して討議した（メンバー参加者：立石博高、菊田和佳子、黒田祐我）。

・9 月 15 日（日）には、京都市内でスペイン語（カスティーリャ語）の中世から近世にかけての変遷についての意見交換を行った。ラテンアメリカとは反対の地中海方面に拡大したスペイン語文化、すなわち、1492 年以後に追放され地中海各地に移住したセファルディー系ユダヤ人が今現在も使っているユダヤ・スペイン語（通称ラディーノ語）をめぐる知見について、高垣敏博氏（スペイン語学、東京外国語大学名誉教授）と議論の機会を設けた（メンバー参加者：黒田祐我）。

（文責：黒田祐我）